

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 加茂小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
1	学びを楽しむ・学びを活かす子ども、夢を語れる・自分のことを語れる子どもの育成	★	新規	<ul style="list-style-type: none"> ・やってみたい、解決したいという思いをもつ子どもの育成 ・自分のことや思いを表現できる子どもの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や「加茂っ子チャレンジ」など、子どもを主体と考える取組の実践 ・教材研究にもとづいた「任せ、考える・書く」授業、「書く」活動の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びについて児童の肯定的評価80%以上 ・「書く」ことについての児童の肯定的評価80%以上、教師の取組状況と見取り 	主体的な学びについて肯定的評価84.4% 1年生は肯定的評価94.3%。単元の学習が終わっても学んだ内容を他教科で活かしている。 教材や教具がすぐ手に届くところに置いてあり、子どもたちの楽しいという気持ちが探求に繋がっている。			教員が考える学びを広げるための取り組みが、子どもたちの実態と合うようにしなければならない。何が主体的な姿なのかを子どもたちに示す。発表するだけでなく、友達の意見と自分の考えを比較したりすることも主体的に学ぶ姿だということを意識させる。自分の考えを、人前で話したり、書いて表現したりする活動を増やす。				
1	安心して楽しく過ごせる、学べる環境づくり	★	新規	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学びをつくる子どもの育成のための環境づくり ・子どもが安心して学べるための環境づくり ・ふるさとを大切に考え、学ぶための環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館や第2図書館の整備 ・特別活動と多様な学びの場の充実 ・地域教材の発掘と実践、CSの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の活用頻度と主体的な学びについての肯定的評価の相関関係 ・児童の出席数、欠席数 ・地域カリキュラムの実施回数、児童の総合的な学習の時間に対する評価 	週に1回以上図書館を利用している児童は44.1%だが、図書館を安心して使える場として捉えて行っている児童が多い。 自分の考えや思いを認めてもらえる学級づくり。フリースタイルプロジェクトや行事等がきっかけになって教室で過ごす時間が増えた児童もいる。 総合的な学習の時間・生活科の時間が楽しいと感じている児童は92.2%。自己決定の場が多いことが理由ではないか。			図書館が常時開放していることをさらに周知し、休憩時間だけでなく、授業の中でも気軽に活用できるようにする。 フリースタイルでは、振り返り時に自分が今の程度到達できているのか、次の時間に何をやるのか視点を絞って見直しを持つようにする。 ふるさと学習では、各学年カリキュラムマップと照らし合わせて地域教材の研究を進め、学習の場を広げている。				
1	幼児期から中学校への学びをつなぐ保幼小中連携	★	新規	<ul style="list-style-type: none"> ・視察や交流から学ぶ保幼小中連携 ・小の学びを確実につなげる保幼小中連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・保幼小中連携協議会の計画的な実施と内容の充実 ・授業交流や授業観察の実施と実態交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・保幼小中連携の取組についての充実度 ・子どもの姿を通しての見取り 	定期的に低学年を中心に保幼中の先生と連携を図っている。			低学年だけでなく、学校全体で保幼小中の取り組みを共有できるようにする。				
1	教職員が生き生きと働ける職場づくり	★	新規	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事に対する満足感や充実感を向上させる。 ・時間と質を意識した業務を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意欲を重視した取組や研修の実現 ・メリハリのある勤務時間の遂行 	<ul style="list-style-type: none"> ・「仕事にやりがいを感じている教職員」90%以上 ・在校時間外勤務、年間360時間以内 			時間を意識して退校できるようにする。在校時間外勤務の時間を自分自身で把握できるようにしておく。校務補助員を活用し、計画的に業務を依頼する。					

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。